

論 題	古地名を利用した住教育プログラムの開発	学籍番号	20918027
指導者	薬袋 奈美子 准教授	氏名	田中 美帆

1 研究の背景と目的

住教育は学習者の住生活の体験が様々であり、また学習した事を実生活に生かすににくい事から、家庭科における住領域の指導はされにくい現状にあり続けている。しかし住教育は、「住む」事を学ぶという特性から、他の教科で習う知識を実際の生活に結びつける事が出来るという性質を持っている。

本稿では、地理分野の学習を通じて「防災意識を高くみ安全な暮らし方を学ぶ」事を目的とし、学習指導要領に基づいた中学校社会科の地理的分野「日本の様々な地域」での防災教育プログラムを提案する。

2 プログラム内容

中学校学習指導要領社会科[地理的分野]の「地域調査など具体的案活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる」という目標に沿って、「身近な地域の調査」という単元において住教育学習ができるプログラムを提案する。

この単元では、「地形図の読み方・地域調査の方法・データのまとめ方」等、地理的能力を育成する学習内容が設定されているが、地理的分野では身近な地域を扱う唯一の単元であり、自分の住む地域の学習として住教育的分野の学習にも有効であると考えられる。教科書の学習内容に「古地名と防災」についての内容を付加することで、社会科の授業の中で行える住教育の授業を提案する。

2-1 学習する単元の内容

「身近な地域の調査」では、①身近な地域の特徴を観察・空中写真・地形図・諸文献から発見し、②生徒自身が疑問に感じ、調べてみたいと感じたことを調査テーマに設定、③調査結果を予想し、仮説と調査計画を立て、野外観察などの調査活動につなげる。④野外観察や聞き取り調査を通して、地域の特色や課題を見つけ、(→)

(→)⑤文献・統計・地図・写真などの資料を調べて、調査テーマを深く追求し、結論を地図や図表にまとめる。⑥グループごとに発表を行い、他のグループの発表も参考にして、身近な地域の特色や課題をとらえ、よりよい地域の将来像を考える。

2-2 教科書の構成

東京書籍発行「新編新しい地理」における「身近な地域の調査」の内容構成を表1に示す。教科書には本編の他に、「スキルアップ」という生徒の学習を補助し、深める為の項目がある。

2-3 付加する学習内容とそのねらい

本プログラムでは、教科書のスキルアップの項目に「古地名と防災」に関する内容を加える。教科書に加える内容と、その内容を学習したことによる生徒の思考のねらいを図1に示す。

図1 教科書に付加する内容と生徒の思考のねらい

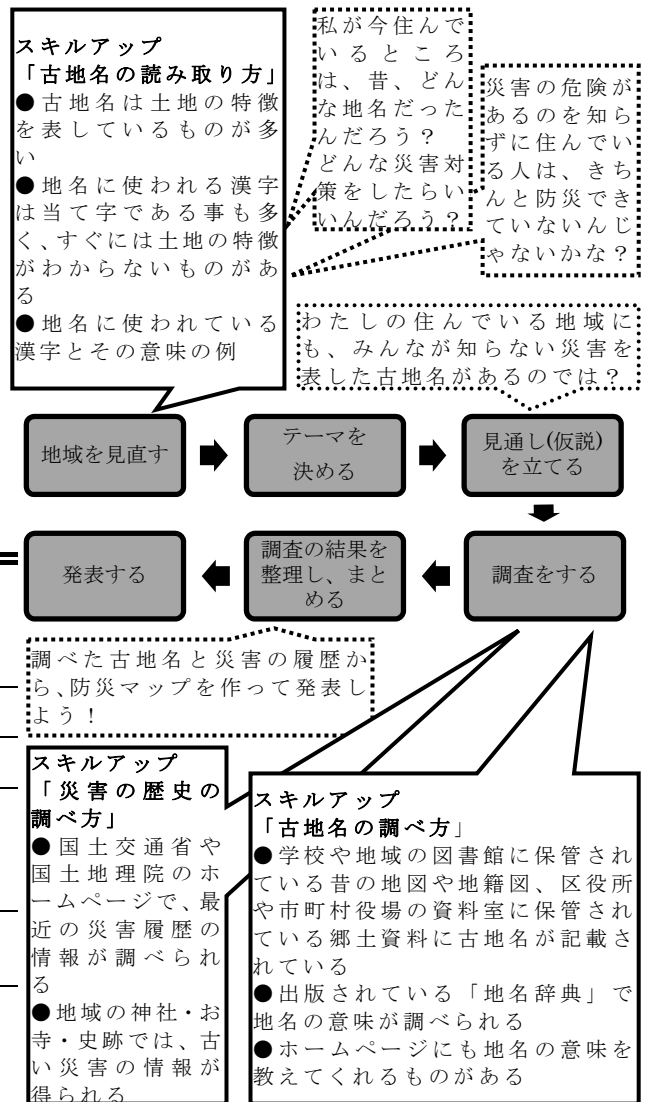


表1 教科書の構成

手順	○本文みだし ●スキルアップ
① 地域を見直す	○身近な地域の再発見○実際に歩いてみよう ●野外観察に出かけてみよう●地形図の読み取り方○地形図を読み取る ○地域の変化に着目しよう●景観写真の読み取り方○空中写真で比較してみよう
② テーマを決める	○調べたいことを探そう ○調査するテーマを決める
③ 見通し(仮説)を立てる	○調査の見通しを立てる ●調査を上手く進める為には
④ 調査をする	○地形図を比べて仮説を立てる○資料を調べ、家族に話を聞こう●グラフの読み取り方○新旧住宅地の観察○地域の特色を調べる●聞き取り調査をやってみよう○寺院での聞き取り調査○商店での見学と聞き取り
⑤ 調査の結果を整理し、まとめる	○地図や図表に表してみよう ●グラフの作り方○調査結果を整理してまとめよう●統計地図の作り方
⑥ 発表する	○わかりやすい発表の工夫○発表内容のお整理と資料の活用●イラストマップのまとめ○ほかのグループの発表から学ぶ●パンフレットの作り方

2-4 提案するプログラムのねらい

提案するプログラムのねらいは、地理的分野として「観察や調査などの活動を通して、身近な地域に対する理解と関心を深めさせる」「既習の知識や概念を活用し、市町村規模の地域調査を行う際の視点や方法を身につけさせる」、住分野として「古地名の学習の中で、自分が住む地域の防災について考え、さらに住環境の選択が出来るようになる」「将来投票権を持つ市民として、自分の住む地域における意思決定を行える力を養う」の各二点である。

2-5 学習指導案

「身近な地域の調査」に「古地名と防災」の内容を付加して行った場合の学習指導案を表2に提案する。また表3には、古地名にかんする資料案を示す。生徒はこのような資料を使い、地域を調査する。

2-6 評価の視点

評価は、[地理分野のねらい達成出来ているか]と[住分野のねらいを達成出来ているか]の二点を基準に判断する。詳しい評価の視点を表4に記載する。

3. おわりに

義務教育の最終段階である中学校での社会科は、市民を育てる貴重な時間である。今回の防災を意識した授業内容を実践し改善することで、良き市民を育む機会となろう。

表2 学習指導案

学習活動	指導上の留意点	時数
①大きな縮尺の地図の読み取り 学校所在地のある縮尺の大きな地図を、様々な視点から読み取る	・方位、地図記号の意味を確認させる。 ・土地利用や地形、道路や水路、公共施設等の分布などを色別けして読み取らせる。 ・地図上で地点間の距離を測る ・等高線と傾斜の関係を確認する。	1
②古地図の読み取り 昔の地図と現在の地図を比較し、地域の変化を読み取る。	・古地名を水に関する地名、低地に関する地名、農耕地に関する地名、高台に関する地名に色別けする。 ・古地名の土地利用や地形、道路や水路、公共施設等の分布などを色別けしたものに古地名を書き込み、その土地の様子を想像する。	1
③地域の情報収集と課題設定 地域の特徴となる地理的事象の分布をとらえる。	・土地利用、建物、人口等の分布などの傾向をとらえさせ、なぜそのような分布がみられるのかを予想させる	2
④調査 追求課題に対して、その追求のための調査活動を行う。 他の事象との関連を考察する。	・過去の社会科での既習の知識や概念を生かし、関連のある事象についての資料や情報をインタビューや観察等で収集させる。  ・集めた資料や情報を分布しながら、予想について他の事象との関連を基に考察させる。	2

⑤地域の課題としての考察 地域の変貌の視点から、地域の課題を考察する。	・地域の特色になる地理的事象がいつ頃からみられ、それは地域の変貌によってこれからどのように変化していくのかを考察させる。	1
⑥調査のまとめと意見交換 調べてきた結果を整理し、話合う。	・追求課題をどのような過程を経て追及してきたのか、また、どのようなことが分かってきたのか、地域の課題としてどのようなことがみえてきたのかを、地図、グラフ、関係図等にまとめ、わかりやすく発表させる。 ・発表後は、グループでの質問作成時間を取り、課題に対するグループの考えも入れた質問をする。	3

表3 古地名にかんする教育内容

地形にかんする地名		歴史的経緯にかんする地名	
山	山・峰・根・尾	田	和田・益田
川	川・河・江・瀬・淵・袋	村落	田中・田居・田代 村上・里見
森林	森・林・山	開墾	新治・新田
谷	谷・沢	用水と村境	樋口・堺
荒地	鹿・小豆・柿	神社や寺院	宮崎・屋代・寺内
窪地・台地	窪・久保・第・塙	荘園の租税	免田・一色
峠	峠・坂・越・三 国	武士の館	屋敷・館・堀の内・垣内
海岸	浜・磯・浦・洲・先・鼻		

表4 評価の視点

学習活動	★地理分野としての評価の視点 ☆住分野としての評価の視点
①大きな縮尺の地図の読み取り	★土地利用、地形を地形図から読み取れている
②古地図の読み取り	★地域変化を写真や地図から読み取れている ☆古地名から低湿地等の特徴を理解している ☆湿地・水・田園などを表す地名が、地盤が弱い可能性がある事を理解する
③地域の情報収集と課題設定	★適切な調査テーマを設定し、調査結果の見通しや調査計画を立てている
④調査	★ルートマップや聞き取り調査表の事前準備、調査中のスケッチやメモなど地域調査の方法を身につけている
⑤地域の課題としての考察	☆身近な地域の特色や課題を、地域の自然環境や他地域との結び付き、人の営みとのかかわりから理解している ☆現在の住環境の状況を把握し、これからの地域の課題を正しく提案できている
⑥調査のまとめと意見交換	★調査結果を検証し、考察した事を、地図や図表にまとめられている ☆他グループとの意見交換の中で、住環境に対する視点を複数得られている

謝辞)本研究に協力いただいた日本女子大学葉袋研究室の立石万里子さん・廣崎実央さんに感謝の意を表します

参考文献)1 東京書籍「新編新しい社会地理」2010 2 東京書籍「新しい社会地理教師用指導所」2012 3 青柳慎一ほか「中学校新学習指導要領の展開」2008